

家庭教育力の強化を図ろう

～すべての人を大切にする家族をみんなで目指そう～

岡崎市立城南小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

岡崎市立城南小学校は、J R 岡崎駅近くの住宅地に位置し、都市の利便性と自然環境が調和した地域にある。宅地開発が進む一方、田畠や川もあり、エビやカニなどの生物も見られる。幹線道路沿いには大型商業施設が立ち並び、交通アクセスも良好で、生活環境に恵まれた学区である。

2 研究のねらい

城南学区では、多様な人々が共に暮らしている。「すべての人を大切にする家族」を目指し、「人が笑顔になることをしよう」という心構えのもと、互いを思いやり、認め合う関係づくりを進めていきたい。こうした関係が、親子・友人・地域などの人間関係を良好にし、子どもたちが安心して健やかに成長できる環境につながることをねらいとしている。

3 研究の仮説

互いを思いやり、笑顔を生み出す関わりを日常の中で積み重ねることで、人を大切にする心が育まれるのではないか。城南家族として、相手の考えを聴き、自分の気持ちに向き合い、命を尊び、助け合うことを意識しながら様々な活動や取組を進めることで、すべての人を大切にする家族の姿に近付いていけると考える。

4 研究の方法

研究の方法として、目指すゴールや心構えをポスターにして全家庭に配付し、共通理解を図る。行事の際にはそのゴールに触れながら活動を行い、日常生活の中で意識付けを行う。また、月に一度 P T A からメールマガジンを発信し、健康への配慮や子どもの頑張りへの称賛、長期休み明けの心のケアなど、互いを大切にする具体的な行動についての情報を家庭に届ける。

5 研究の実績

(1) P T A 総会での研究目標の周知

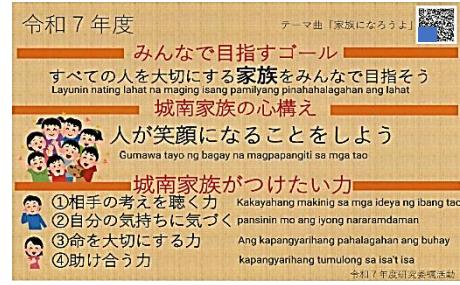
4月の P T A 総会にて、今年度の研究テーマ「すべての人を大切にする家族になろう」を発表し、活動の目的や具体的な取組について説明した。子育てを通じて、子どもと共に育ち合う親を目指すことの大切さを伝え、家庭教育力の向上に向けて、保護者一人ひとりが意識を高めるきっかけとなるよう働きかけた。



(2) ポスター配付

令和 7 年度、城南小学校では「すべての人を大切にする」心を家庭でも学校でも意識して過ご

せるよう、「みんなで目指すゴール」「城南家族の心構え」「城南家族がつけたい力」を1枚のポスターにまとめ、各家庭に配付した。家庭での掲示をお願いすることで、日常の中で子どもも保護者も目標を共有し、意識を高めるきっかけとなった。また、学校と家庭が連携し、城南家族としての共通理解を深めることができた。



(3) メールマガジンの配信

本校では、学校やPTA主催の行事の前後に、PTAよりメールマガジン「家族がいるから」を配信している。行事前には子どもたちへの励ましの言葉を届け、行事後にはその頑張りを称える内容を発信することで、家庭でも人を大切にする心を育むことを推進している。保護者が子どもの努力に目を向け、認める機会となり、学校と家庭が連携して「すべての人を大切にする」姿を日常の中で実践する取組である。また、学校ではなくPTAから発信することで、保護者自身が主体的に子どもの成長に関わる姿勢を育むことにつながっている。こうした情報発信を通して、城南家族としての意識を高め、家庭と学校が協力して子どもたちの心の育ちを支えている。

(4) 学区ふれあい運動会

城南小学校の最上位目標「すべての人を大切にする城南っ子になろう」を受け、学級代表者会は「一歩でつながる 城南きずなの輪」という学校テーマを考案した。このテーマのもと、ふれあい大運動会では、子ども・保護者・地域の方々が一体となって競技に参加した。大玉送りでは来校者全員が勝敗にこだわらず楽しみ、家族でGOでは親子が協力して障害物を乗り越え、バトンをつなぎだ。親子玉入れでは町別対抗で真剣に取り組む姿が見られ、親子での勝負が絆を深める体験となった。運動会後にはPTAより子どもの頑張りを称えるメールマガジンが発信され、学校・家庭・地域が一体となって子どもを支える姿が見られた。



6 研究の考察

城南小学校では、「すべての人を大切にする家族」を目指し、家庭と学校が連携して心の育ちを支える取組を進めてきた。ポスターやメールマガジンによる情報発信は、家庭での意識付けに効果があり、保護者の主体的な関わりを促すことができた。行事では、親子や地域の人々が一体となって活動することで、絆を深める機会となった。これらの活動を通じて、城南家族としての意識が育まれ、「すべての人を大切にする」心が日常の中に根付いてきていると考える。

7 成果と今後の課題

本研究を通じて、家庭教育力の強化に向けた具体的な取組が進み、学校と家庭が協力して子どもたちの心の育ちを支える姿が見られるようになった。一方で、すべての家庭に同じように意識が浸透しているとは言い切れず、情報の受け取り方や関わり方には個人差がある。今後は、より多様な家庭の実情に寄り添った情報発信の方法や、参加しやすい活動の工夫が求められる。また、子どもたち自身が「人を大切にする」ことの意味を深く理解し、自らの言動に反映できるよう、学校教育との連携をさらに強化していく必要がある。